

いちごの高冷地育苗における無仮植苗の利用

1. 試験のねらい

最近、省力化および炭そ病回避を目的として、高冷地育苗における無仮植苗の利用が増えていることから、山上げ時期、苗の大きさ及び高冷地での仮植床の窒素施用量について平成4年に検討した。

2. 試験方法

(1) 山上げ時期の影響：山上げ時期は7月1日、10日、21日、30日の4処理を設け、中苗（葉数3～4枚）を供試し、仮植床の窒素施用量は無施用で検討した。

(2) 苗の大きさと仮植床の窒素施用量：苗の大きさは小苗（1～2枚）、中苗（3～4枚）及び大苗（5～6枚）の3処理、高冷地での仮植床の窒素施用量を0、1.5、3.0、4.5kg/10aとし、これらを組み合わせた12処理を設けた。採苗、山上げは7月21日に行った。

両試験とも対照として、7月21日に採苗、8月10日に山上げた慣行の高冷地育苗区を設けた。山上げ場所は戦場が原（標高1400m）で、いずれの試験とも山上げは9月11日に行い、定植はうね間110cm、株間21cmの2条高うねとし、本ぼの施肥量はN2.0、P3.0、K2.0kg/aで、保温は10月14日に行った。収穫調査は4月15日まで行った。

3. 試験結果および考察

(1) 山上げ時期の影響：山下げ時の生育は、山上げが早いほど優れ、最も早い7月1日区は慣行とはほぼ同程度であった。花芽分化はいずれの処理区とも慣行より早く、開花始期、収穫始期も早い傾向であった。収量は、初期収量及び総収量とも7月30日区が慣行と同程度であった以外は慣行より多収で、特に7月10日区が最も多収であった。

(2) 苗の大きさと仮植床の窒素施用量：山下げ時の生育は、採苗時の苗が大きいほど優れ、窒素施用量間では施用量が多いほど優れる傾向であった。花芽分化は小苗区または窒素施用量の多い4.5kg区以外は慣行と同程度かやや早い傾向で、収穫始期も同様の傾向であった。初期収量は窒素無施用区の中苗と大苗区が多収で、慣行よりも勝った。総収量は1.5kg区の大苗区以外は慣行と同程度または勝る傾向で、特に、3.0kg及び4.5kg区では苗の大小に関わらず多収であった。

4. 成果の要約

無仮植苗を利用した高冷地育苗における山上げ時期、苗の大きさ及び仮植床の窒素施用量について検討した結果、山上げ時期は7月上中旬が最適と考えられた。また、苗の大きさは中苗または大苗が適し、仮植床での施肥量は、年内収量を重視する場合は無肥料とし、収量本位とする場合は10a当たり3.0～4.5kg程度施用するのがよいと思われた。

（担当者 栃木分場 大谷晴美）

表-1 山上げ時期の影響

山上げ 月・日	山下げ時の生育			花芽 分化 指数	保温1ヶ月後 の葉柄長 (cm)	開花 始期 月・日	収穫 始期 月・日	収量(g/株)	
	葉柄長 (cm)	莖径 (mm)	株重 (g)					年内 収量	総 収量
7月1日	7.8	9.2	16.8	4.8	9.2	10.17	11.24	110	334
7月10日	7.7	9.6	15.2	5.0	10.1	10.13	11.8	123	369
7月21日	6.3	8.4	11.8	4.6	10.1	10.15	11.13	108	319
7月30日	4.6	9.1	9.2	4.4	9.6	10.17	11.24	94	294
慣行	5.1	8.9	16.9	4.0	9.5	10.26	11.27	96	293

注. 花芽分化指数は、未分化:0、肥厚期:1、花芽分化:2、花房分化:3、かく形成:4、雄ずい分化:5、雌ずい分化:6で表示した。

表-2 苗の大きさと仮植床の窒素量の影響

仮植床 窒素量 (kg/10a)	苗 の 大小	山下げ時の生育			花芽 分化 指数	着花数 (頂花房)	開花 始期 月・日	収穫 始期 月・日	収量(g/株)	
		葉柄長 (cm)	莖径 (mm)	株重 (g)					年内 収量	総 収量
0	小	6.1	7.7	6.9	3.5	18.7	11.5	11.27	63	287
	中	6.3	8.4	11.8	4.6	13.6	10.15	11.13	108	319
	大	8.3	10.8	20.8	5.2	17.5	10.18	11.24	106	288
1.5	小	7.6	8.2	8.9	3.0	19.2	11.11	11.27	46	297
	中	8.9	10.1	17.0	4.2	17.9	10.24	11.29	85	290
	大	10.2	10.7	22.0	4.7	19.7	10.23	11.30	86	268
3.0	小	9.0	9.2	10.5	4.6	20.2	10.30	11.20	78	335
	中	10.4	10.9	20.6	4.6	22.8	10.27	11.23	75	350
	大	11.6	11.8	27.8	4.2	21.7	10.21	11.26	95	341
4.5	小	9.1	8.9	9.6	2.6	20.9	11.10	12.2	48	368
	中	14.2	10.8	20.1	3.6	22.4	11.4	12.9	64	394
	大	15.9	12.8	34.3	4.2	21.9	10.26	11.29	86	349
慣行		5.1	8.9	16.9	4.0	18.8	10.26	11.27	96	293

注. 花芽分化指数は表-1の脚注に同じ。